

派遣先所属 福島県商工労働部産業創出課ロボット産業推進室

氏 名 柴崎 雄貴 (しばさき ゆうき)

派遣期間 平成31年4月1日～令和3年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

福島県では、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトである「福島イノベーション・コースト構想」に基づき、廃炉、ロボット、農林水産、エネルギー、環境・リサイクルの各分野におけるプロジェクトの具体化が進められるとともに、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等の取組が行われています。

このうち、ロボット分野において、世界に類を見ない一大研究開発拠点として「福島ロボットテストフィールド」の整備が平成29年度から進められ、令和2年3月末に全面開所しました。

派遣先のロボット産業推進室では、この「福島ロボットテストフィールド」の整備・運営に関する業務や、ロボット産業の振興、県内企業への補助等を実施しています。

私は当室での業務は2年目となり、「福島ロボットテストフィールド」全面開所に伴い、開所式等の開催や本格的な稼働、また、他にも様々な行事が予定されていたところです。

しかしながら今年度、新型コロナウイルス感染症が業務内容に大きく影響を及ぼしました。開所式は当初の予定から時期をずらし、規模も縮小して実施しました。施設の使用や見学に制限を設けた時期もあります。その他の行事も、実施のあり方の再検討が必要となりました。日常の業務においても、オンラインによる会議が増加し、在宅での勤務方法も導入され、福島県内の業務方法も変化しています。



2 被災地の復旧・復興の状況

東日本大震災からまもなく10年を迎えますが、この間、福島県での復興は着実に進み、明るいニュースを聞くことが多くなりました。その一方で廃炉や汚染水の問題、補償や帰宅支援など、残されている課題も依然あります。更には、震災、津波、原子力災害による影響、風評被害に加え、昨年度の台風19号及び集中豪雨、また、新型コロナウイルス感染症による世界的な影響と、何重もの困難が重なっているのが現状です。今後の復旧・復興においてはこれらの状況を踏まえた対策が必要となります。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県には、伝統的な行事、豊かな自然、有名な温泉、果物や日本酒、美味しい食べ物など、魅力的な場所が数多くあります。福島県での生活も2年目となり、県内を広く回ってみたいと考えていましたが、緊急事態宣言や自粛要請といった社会的背景もあり、県内遠方だけでなく、福島市内であっても外出を自粛する日々が続きました。

しかし、このような情勢だからこそ、職場内外の関係の皆様と協力して業務にあたったことや、遠方ではなく地域の方との交流が生まれたことが貴重な経験となりました。そして、福島県という場所のイメージに加えて、福島県民の方々の人柄を知ることができました。

業務においては、最先端の分野で、常に前向きに取り組んでいく職場で勉強をさせていただきました。特に開所式では、来賓として復興大臣、国土交通大臣をはじめとした国会議員の皆様、地元代表者の皆様、関係機関の皆様をお招きし、更に新型コロナウイルス感染症にも留意が必要な状況での開催となり、過去に体験したことのないような業務でした。そのぶん、強く思い出に残っています。

この2年間の経験を糧に、埼玉県での業務においても、前向きに取り組んでまいります。また、帰任後も、この福島県とのつながりを大切に、積極的に訪れたいと考えています。

